

スギウラ株式会社 027-361-5808		
タオル 年始の挨拶まわりといえばタオルを持っていますが、なぜタオルなのでしょう うか？ お年賀タオルとタオルについて調べました。 お年賀タオル 年賀の挨拶をする時に品物を持ってゆくのは江戸時代からの風習です。手ぬぐいを配るのは、江戸時代に歌舞伎役者が自分の考案したデザインや家紋を染めた手ぬぐいを畳肩筋に配るようになったのが始まりのようです。商人も年賀の挨拶に伺うときに、手ぬぐいを持参したようですが、今はタオルに変わっています。 タオル タオルは、吸水性や肌触りに特化するため、その多くは表面にループ状の細かい糸が飛び出している布地で、基となっている布地は粗く通気性に富むものが一般的です。材質に広く使われているのは綿です。そのほか、吸水性を向上させたものでは、ナイロンやポリエステルが使われる物があります。 産地と現状 日本の三大産地は、愛媛県・今治市、大阪府・泉州地区、三重県ですが、現在のタオル生産は安価な中国などが主流で、国内の産地は苦境に立たされています。そのため、国内業界団体は、国に対して中国などへの繊維セーフガード発動を要請しています。こうした背景から日本の産地では、高価で高品質な製品の生産に方向転換しつつあります。		
スギウラ株式会社		
〒370-0006 高崎市問屋町 2-2-8		
電話番号 代 表 027-361-5808 営業1課 027-361-5734 営業2課 027-361-5780		
Fax 027-361-1272		
当社 Web サイト www.kamisugiura.co.jp		

ニュースレターQ	
スギウラ株式会社 027-361-5808	
2011年1月1日 発行 第 43 号	
特 集 封筒・特殊紙 キャンペーン はがき 初詣 タオル	封筒・特殊紙キャンペーン 明けましておめでとうございます。 今年も宜しく願いいたします。 「暑」の漢字で表された平成 22 年も終わり、また新たな一年がスタートしました。今年はどんな年になるでしょうか。また、どんな目標を立てましたでしょうか。 気ぜわしい日々が続くかと思われませんが、体に気をつけ無事に乗り切りたいものです。 はがき 皆さんは年賀状はどのくらい書かれた、もしくは貰いましたでしょうか。昨今は若い人を中心に、年賀状ではなく年賀メールで新年の挨拶を済ませてしまうということも少なくないようです。しかしそれでもやはり、まだまだ年賀状は主流。今回は年賀状を含めた、はがきのお話です。 郵便事業が存在する国では通常、それは国家事業もしくは公社の事業です。故に国家もしくは公社が発行するはがきを「官製はがき」あるいは「公社製はがき」、私企業が発行するそれは「私製はがき」と区別されます。 官製はがきの場合、表面に切手と同じ効力を持つ「料額印面」が印刷されており、料金支払い済みであることを表します。 私製はがきにはそれはありませんが、日本ではご存知の通り、現在郵便局は民営化されており、その意味では「官製はがき」は存在しないのですが、民間企業が発行する「官製」はがき（現在の名称は「郵政はがき」）という妙な状態で運用されています。

営業1課

日本では江戸時代より飛脚による通信網が形成され、公的・私的に書簡による情報伝達が行われておりました。こうした状況を背景に、明治近代以降通信網がさらに発達すると、簡便な情報伝達手段してのはがきの地位が確立されていきました。郵便物の一つとしての郵便はがきは1873年（明治6年）より導入され、1900年に私製はがきが認可されました。

また私製はがきは企画どおりの寸法（100mm×148mm）であっても表面に「郵便はがき」の文字が無ければ、それは単なる「はがき寸法の紙」でしかない点にはご注意下さい。基本的にはがきは、重量や厚さが規格内に収まっていれば紙質等は問われないのですが、例えば自分ではがきを作っても「郵便はがき」の文字が無ければ、規定料金では届きません。逆に、料金さえ払えばどんなものでもはがきに出来ます。それは年賀状でも同じで、赤い字で「年賀」と書いてあれば、どんなものでも年賀郵便に出来ます。

さてここで年賀はがきの話が出てきました。平成23年用の年賀はがきは平成22年11月1日に発売されましたが、当初の発行枚数は寄付金付き年賀はがきを含めて36億5500万枚です。枚数の最盛期は過ぎて久しいものの、未だこれだけの数量を誇っています。さらに通常のものに加え「ディズニーキャラクター年賀状」「いんどり年賀状」のラインナップもあります。前者は一部の郵便局で「香り付き」も1枚70円で販売されます。

さらに世相を反映して「カーボンオフセット年賀状」も1枚55円で販売されます。この5円分が地球環境温暖化防止プロジェクトに利用されるようです。

ところで年賀状といえは、毎年お年玉くじを楽しみにしている方もいらっしゃるでしょう。今年の1等は①40型ハイビジョンTV ②選べる海外・国内旅行 ③選べるオフィスグッズセット ④ノートPC+デジカメ+IJプリン

タセット ⑤電動自転車 の五つのなかから選べます。3655本あるので、100万枚に1枚、当たります。

今では当たり前となったお年玉くじですが、始まりは1949年（昭和24年）でした。始まりは、というより、それまでは普通の官製はがきを年賀状として使っていたので、年賀はがきは最初からお年玉つき、ということになります。昭和24年というまだ戦争の傷跡も生々しい時期に、国民の気持ちを少しでも明るくしよう、という発想から誕生しました。

お年玉付き年賀（専用）はがきは発売と同時に大ヒットしました。なお1955年には米軍占領下の沖縄でも年賀はがきが発行され、翌年には年賀切手も発行されました。

因みに第1回の当籤(とうせん)賞品は、特等：ミシン、1等：純毛洋服地、2等：学童用グローブ、3等：学童用コウモリ傘、といった内容でした。当時は手製の洋服等を作るのが流行していたようです。その後は時代のニーズに応えつつ賞品も変化していき、平成に入ってから海外旅行や最新型TV、PCなど数点の中から選ぶ方式になりました。

時代が移り変わっても、時候の便りや気持ちのこもった手紙を書く楽しさ、年の初めに年賀状を貰う嬉しさは変わりません。Eメールでの挨拶や連絡も珍しくなくなってしまった今こそ、それを大事にしていきたいですね。



営業1課・今月の商品紹介

☆ インクジェット用紙

国内最高級品質！L判、葉書サイズ、A/4をご用意いたしました。写真にDMに挨拶状に是非。

営業2課

初詣

初詣（はつもうで）とは、年が明けてから初めて社寺（神社・寺院）などに参拝し、一年の無事と平安を祈る行事です。

由来

元々は「年籠り」（としこもり、としごもり）と言い、家長が祈願のために大晦日の夜から元日の朝にかけて氏神の社に籠る習慣でした。やがて年籠りは、大晦日の夜の「除夜詣」と元日の朝の「元日詣」との2つに別れ、元日詣が今日の初詣の原形になりました。江戸時代末期までは氏神またはその年の恵方の方角の社寺に詣でること（恵方詣り）が多かったのですが、明治以降では氏神や恵方とは関係なく有名な社寺への参詣が普通になりました。また現在でも、除夜に一度氏神に参拝して一旦家に帰り、元旦になって再び参拝するという地方があります。これを二年参りといいます。

初詣が習慣化したのはそれほど古い時代ではなく、明治時代中期のこととされています。明治時代初期までは恵方詣りの習慣が残っていたようですが、京阪神において電鉄会社が沿線の神社仏閣をてんでんばらばらに「今年の恵方は〇〇の方だ」と宣伝し始めたために、本来の恵方ではない神社仏閣にも詣でようになり、恵方の意味が薄れ、有名な神社仏閣にお参りするようになったといわれています。

関東においても、京成電鉄や京浜急行電鉄など、参拝客の輸送を目的として開業された鉄道会社が存在します。基本的に「年籠り」形式を踏まず、単に社寺に「元日詣」を行うだけの初詣は明治以降広まった新しい習慣であり、それも鉄道網の発展による賜物なのです。

神社か寺院か

初詣の対象は神社・寺院のいずれでもかまわないとされています。これは明治時代初期に神仏分離が行われる前は、神道と大乘仏教、ならびに祖霊信仰が一体化した神仏習合による信仰が一般化していたためです。つまり初詣に限らず社寺への参詣に神道・仏教の区別は無いとされていたことの名残りです。

期間と回数

一般的に、正月三が日に参拝するのを初詣といっていますが、一月中に参拝すれば特に問題は無いようです。また、回数に関する規定も無く、多数の神社仏閣に参詣すれば色々なご利益があるという説もあります。例えば西日本の一部地域の様に「三社参り」などと言って正月三が日の内に複数(多くは三社程度)の神社に参拝するのが習慣となっている地域もあります。前記の通り、神仏習合の思想が大きく影響しているためと考えられます。

お参りの仕方

まず、下界のけがれを落すために御手洗（みたらし）で手を清めましょう。次に、拝殿の前にぶらさがっている大きな鈴を鳴らし神様にコンタクトします。そして、二回おじきをして、パンパンと二回拍手(かしわで)を打ちます。ここで神様にお願いをしましょう。終わったら、最後にきちんと一礼。ちなみにお寺では合掌です。手を叩かないように。

近くの初詣スポット

高崎・慈眼院

通称「高崎観音」見晴らしがよく初日の出も見られる。

富岡・一ノ宮貫前神社

群馬県で一番初詣参拝者が多い。昨年13万人。

沼田・迦葉山龍華院弥勒寺

大きな天狗様が奉納され、交通安全祈願に訪れる人が多い。

みどり・貴船神社

交通安全の神として知られ、年間数万人のドライバーが参拝に訪れる。

渋川・水澤寺

「水澤観音」の名で親しまれる天台宗の古刹。